

共通科目

(博士前期課程及び修士課程)

科目名	Academic English for Global Perspectives 演習	後期	2 単位
サブタイトル	学術論文を読む		
担当者	野末 紀之		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <p>①学術的な英文を読めるようになる ②学術的な英文を的確に批判できるようになる ③学術的な英文の読解を通じて、英文レポート作成に必要な方法や基本的表現を身につけることができる</p> <p>[授業概要]</p> <p>授業はZoomで行なう。Zoomの情報はKISSシステムから確認可能</p> <p>授業で扱う英文の内容は、初回授業で受講生の関心や専門分野を確認してから決定する</p> <p>受講生の関心のあるテーマについて書かれた英文記事や論文、レポートなどを読む。この場合の「読む」とは、語彙や表現、言い換え、比喩、論の展開、前提となる見方、文化的背景などに十分注意しながら、批判的読解を行なうことを意味する。適宜、英語によるコメントをプレゼンしてもらう。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>予習としては、選択した英文を、辞書を引きながら読むこと。疑問点や不明点はメモして整理しておく。 復習としては、授業で得た知見をふまえ、英文を再読する。短い英文コメントを作成する。 予習・復習で2～2.5時間かかる見込み</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 受講生の関心や専門分野の確認 2.英文テキスト(A)読解(1)——語彙とスタイル 3.英文テキスト(A)読解(2)——例示と展開 4.英文テキスト(A)の批判的読解 5.英文テキスト(B)読解(1)——語彙とスタイル 6.英文テキスト(B)読解(2)——例示と展開 7.英文テキスト(B)の批判的読解 8.英文テキスト(C)読解(1)——語彙とスタイル 9.英文テキスト(C)読解(2)——例示と展開 10.英文テキスト(C)の批判的読解 11.学術文献の読み方にかんする追加事項(1) 12.学術文献の読み方にかんする追加事項(2) 13.レポート作成のためのアドバイス <p>[成績評価方法]</p> <p>授業参加およびプレゼンテーションを含む演習課題(50%)、レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>なし(適宜資料をアップする) 出版社:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>なし</p>			

科目名	Academic English for Global Perspectives 特論	前期	2 単位
サブタイトル	学術論文の執筆・発表に特化したコンテンツ重視トレーニング		
担当者	野末 紀之		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <p>①学術的な分析・考察を英語のレポートや論文として書けるようになる。 ③研究成果を英語でプレゼンできるようになる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>授業形態はオンラインとします。1回目のZoom情報はmanabaに掲載する予定</p> <p>授業概要は以下の通り</p> <p>①科学論文とは何かを理解するとともに、それにまつわる通説を問う ②科学論文の基本的構成を学ぶ ③自分のレポートを英語で表現し、プレゼンを行なう</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語・熟語などは辞書により確認する ・予習は、次の授業のテキストの指定箇所を読み、疑問点を整理しておく ・復習は、各回の内容について理解を深め、さまざまな表現を暗記する <p>予習・復習で2時間程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 受講生の関心や専門分野の確認 2. 科学論文とは何か(1) 3. 科学論文とは何か(2) 4. 「客観的な文章」という通説 5. 科学論文の基本的構成 6. イントロダクションの書き方 7. 方法の書き方 8. 展開部の書き方 9. 結論の書き方 10. 受講生のプレゼンテーション(1) 11. 受講生のプレゼンテーション(2) 12. 受講生のプレゼンテーション(3) 13. 質疑応答とまとめ <p>各回、受講生により簡単な英語表現を行なってもらう</p> <p>[成績評価方法]</p> <p>授業への参加度・授業態度(50%)、最終レポート(50%)により評価する</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>『英語科学論文の書き方』 著者名:保田幸子 出版社:ひつじ書房 (978-4-8234-1080-2)</p> <p>[参考書(ISBN)]</p> <p>授業中に示す</p>			

科目名	データサイエンス特論	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	堀 桂太郎		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <p>①データ分析に必要な基本統計処理ができる ②データ分析を行った結果について検討・評価し、効果的なデータの可視化ができる ③回帰分析や主成分分析などの多変量解析を用いたデータ分析ができる ④ディープラーニングやパターン認識などの概要を説明できる</p> <p>[授業概要]</p> <p>各種のデータから目的に応じた有用な情報を抽出して活用するために必要となる情報技術や統計手法などの習得を目標とします。このために、講義に加えて、実際にデータ処理を行って解析する演習を行います。また、ビッグデータ、AI、機械学習、ディープラーニング、パターン認識などの概要についても解説します。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>原則としてPIキャンパスでの対面授業です。ただし、須磨キャンパスに所属する学生はオンラインでの受講を可とします。この他、事情のある学生については受講方法の相談に応じます。 各回の予習・復習、課題への取り組みを行ってください(各回、合わせて2時間程度)。 また、データ分析の各種演習を行うため、オンラインでの参加者は各自で表計算ソフトの使えるパソコンの準備をお願いします。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、データサイエンスの概要 2. データ分析の基礎とデータの可視化 3. データ分析事例の考察と評価 4. コンピュータを用いたデータ処理 5. シミュレーションの基礎 6. シミュレーションの演習 7. 回帰分析1(単回帰) 8. 回帰分析2(重回帰) 9. 主成分分析の基礎 10.主成分分析の実例 11.主成分分析の演習 12.クラスタリング分析 13.ディープラーニング、パターン認識 <p>[成績評価方法]</p> <p>演習課題(70%)、レポート(30%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>なし 適宜、資料を配付します。</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p> <p>なし</p>			